

# 国家職業技能基準

職業コード：4-10-01-05

---

## 養老介護員

(2019 年版)

---

中華人民共和國人的資源社会保障部

中 華 人 民 共 和 国 民 政 部

## 説 明

養老介護員の職業行動を規範化し、養老介護員の職業技能を高め、介護サービスのプロフェッショナル化、専門化、規範化のレベルを高め、介護サービスのニーズをより良く満たすため、「中華人民共和国労働法」、「中華人民共和国高齢者権利保護法」に基づき、人的資源社会保障部と民政部は「養老介護員国家職業技能基準（2019年版）」（以下「基準」と略称）を共同で制定した。この「基準」はすなわち養老介護員の国家職業基準である。

一、本「基準」は「中華人民共和国職業分類大典（2015年版）」に基づき、「国务院弁公庁の介護サービス発展推進に関する方針」（国弁発〔2019〕5号）、「国家職業技能基準作成技術規程（2018年版）」（人社庁発〔2018〕26号）の関係要件に照らし、経済・社会の発展、科学技術の進歩と産業構造の変化の介護への影響を十分に考慮したうえ、高齢者介護技能技術の発展レベル及びその従業者の能力に対する要件を客観的に反映することを目標として、養老介護員の業務領域、業務内容、技能要件などを明らかにした。

二、本「基準」は体裁の規範化を保証し、職業行動を導き手とし、職業能力を核心とする特徴を体现し、柔軟性と実用性を備え、高齢者介護のニーズに合致している。

三、本「基準」には職業概況、基本的要件、業務ニーズとウェイト表の4つの内容が含まれる。2011年改正版と比べ、今回の改正には主に以下の変化がある。

——業界発展の将来性から出発し、本職業の等級は従来の4つから5つに改正し、それぞれ、5級/初級介護員、4級/中級介護員、3級/高級介護員、2級/技師、1級/高級技師とした。

——高齢化の発展傾向と介護サービスの発展ニーズを十分に考慮し、社会的に関心の高い「認知症介護」、「能力評価」、「品質管理」を基準に盛り込んだ。

——時代と社会の発展に順応し、養老介護員の職業機能を更に調整充実し、従来の6項目から「生活介護」、「基礎介護」、「リハビリテーションサービス」、「心理的サポート」、「介護評価」、「品質管理」、「研修指導」の7項目に増加した。

——文章表現を改善し、より科学的、正確にし、規範化した。

四、本「基準」は、民政部社会福祉センターが専門家と実務経験者を組織して研究し編纂した。主なメンバーは、甄炳亮、雷洋、謝紅、楊根来、屠其雷、張華、李潔璐、譚美青、

侯惠如、王燕、易婕、張淑霞、李永奇、賈金鳳である。

五、本「基準」は、人的資源社会保障部の職業能力建設司、民政部の養老サービス司と中国就業育成訓練技術指導センターが審査決定した。主な審査者は、俞建良、黄勝偉、李邦華、廖明、黄禹樺、何妮、肖成龍、鞠致礼、秦璽林、劉均娥、孫兆元、張陸、王港、鄭志芳、田素齊、盧賓、黄秀娟である。

六、本「基準」の作成にあたり、北京社会管理職業学院及び上海、浙江、山東、湖南、重慶、貴州、陝西と南京、臨沂など各省（市）の民政庁（局）などの関係部門と索婉寧、林軍玉、張雪英、孫鈺林、王偉、曹蘇娟、劉保英、李東雲、王倩、馬丹、馮妙妙、李美霖、孫文文、吳可染などからご指導と強力なご支援をいただき、ここで合わせて謝意を表したい。

七、本「基準」は人的資源と社会保障部、民政部の承認を経て、公布日から施行する。

# 養老介護員

## 国家職業技能基準

(2019 年版)

### 1. 職業概況

#### 1.1 職業名称

養老介護員<sup>①</sup>

#### 1.2 職業コード

4-10-01-05

#### 1.3 職業の定義

高齢者のライフケア、介護サービスに従事する人員。

#### 1.4 職業技能等級

本職業には5つの等級を設け、それぞれ5級/初級介護員、4級/中級介護員、3級/高級介護員、2級/技師、1級/高級技師とする。

#### 1.5 職業環境条件

室内，常温。

#### 1.6 職業能力の特徴

身体が健康で、人格が健全で、思いやり、根気と責任感がある。一定の学習、理解、分析、判断と計算能力がある。比較的高い言語表現能力とコミュニケーション通能力を持つ。空間感覚と形体知覚能力が比較的高い。視覚、聴覚が正常である。四肢が機敏で、動作のつり合いがとれている。

#### 1.7 一般的な学歴

---

<sup>①</sup>本職業には認知症高齢者介護者の職種が含まれる。

学歴要件なし。

## 1.8 職業技能検定要件

### 1.8.1 申請条件

以下のいずれかに該当する者は、5級/初級介護員を申請できる。

- (1) 本職業あるいは関連する職業<sup>①</sup>の業務に累計で1年以上従事している。
- (2) 本職業あるいは関連する職業の見習い期間を終了している。

以下のいずれかに該当する者は、4級/中級介護員を申請できる。

- (1) 本職業あるいは関連する職業の5級/初級介護員資格証書（技能等級証書）を取得した後、本職業あるいは関連する職業の業務に累計で2年以上従事している。
- (2) 本職業あるいは関連する職業の業務に累計で4年以上従事している。
- (3) 専門学校の本専攻<sup>②</sup>、あるいは関連する専攻<sup>③</sup>の卒業証書を取得している（卒業証書をまだ取得していない在校中の今期卒業生を含む）。あるいは評価論証を経た中級技能を育成目標とする中等及びそれ以上の職業学校の本専攻、あるいは関連する専攻の卒業証書を取得している（卒業証書をまだ取得していない在校中の今期卒業生を含む）。

以下のいずれかに該当する者は、3級/高級介護員を申請できる。

- (1) 本職業あるいは関連する職業の4級/中級介護員職業資格証書（技能等級証書）を取得した後、本職業あるいは関連する職業の業務に4年以上従事している。
- (2) 本職業あるいは関連する職業の4級/中級介護員職業資格証書（技能等級証書）を取得し、そして高級専門学校、技術者学院の卒業証書を取得している（卒業証書をまだ取得していない在校中の今期卒業生を含む）。あるいは本職業あるいは関連する職業の4級/中級介護員の職業資格証書（技能等級証書）を取得し、そして評価論証を経た中級技能を育成目標とする高等職業学校の本専攻、あるいは関連する専攻の卒業証書を持つ（卒業証書をまだ取得していない在校中の今期卒業生を含む）。

<sup>①</sup>関連する職業：看護師、ホームヘルパー、健康管理師など、以下同じ。

<sup>②</sup>本専攻：中等職業専門学校の専攻：高齢者サービスと管理、民政サービスと管理、コミュニティ公共事務管理、社会福祉事業管理、家政サービスと管理。高等職業専門学校の専攻：高齢者サービスと管理、ソーシャルワーク、民政管理、高齢者保健と管理、家政サービスと管理、コミュニティ管理とサービスなど、以下同じ。

<sup>③</sup>関連する専攻：高等職業専門学校の専攻：看護、リハビリテーション治療技術、健康管理、漢方医学健康保健、リハビリテーション補助具技術、義肢と矯正器具技術、社会福祉事業管理、公共事務管理、労働と社会保障。一般大学本科の専攻：介護学、リハビリテーション治療学、臨床医学、社会学、ソーシャルワーク、公共事業管理、心理学など、以下同じ。

(3) 短大以上の本専攻あるいは関連する専攻の卒業証書を持ち、そして本職業あるいは関連する職業の4級/中級介護員職業資格証書(技能等級証書)を取得した後、本職業あるいは関連する職業の業務に累計で2年以上従事している。

以下のいずれかに該当する者は、2級/技師を申請できる。

(1) 本職業あるいは関連する職業の3級/高級介護員職業資格証書(技能等級証書)を取得した後、本職業あるいは関連する職業の業務に累計で4年以上従事している。

(2) 本職業あるいは関連する職業の3級/高級介護員職業資格証書(技能等級証書)を取得した高級専門学校、技師学院の卒業生で、本職業あるいは関連する職業の業務に累計3年以上従事している。あるいは本職業あるいは関連する職業の予備技師証書を取得している技師学院卒業生で、本職業あるいは関連する職業の業務に累計2年以上従事している。

以下に該当する者は、1級/高級技師を申請することができる。

本職業あるいは関連する職業の2級/技師職業資格証書(技能等級証書)を取得した後、本職業あるいは関連する職業に累計4年以上従事している。

#### 1.8.2 検定方法

理論知識試験、実技試験及び総合評価審査がある。理論知識試験は筆記試験、機械試験などの方法を主とし、5級試験に参加する小学校卒業証書未取得者については、必要に応じて口頭試験を可能とし、主に従業者が本職業に必要とする基本的要件と関連する知識要件を審査する。実技試験は、主に現場での操作、模擬操作などの方法で行い、主に本職業に必要とする技能レベルを審査する。総合評価審査は主に技師と高級技師を対象とし、通常は申請資料の審査、口頭試問などの方法で全面的評価と審査を行う。

理論知識試験、実技試験と総合評価審査はいずれも100点制とし、それぞれ60点以上を合格とする。

#### 1.8.3 試験監督員、評価者と受験者の比率

理論知識試験の試験監督員と受験者の比率は1:15以上で、かつすべての標準教室に2人以上の試験監督員とする。実技試験の評価者と受験者の比率は1:15以上で、かつ評価者は3人以上の奇数とする。総合評価審査委員は3人以上の奇数とする。

#### 1.8.4 所要時間

5 級/初級介護員、4 級/中級介護員の理論知識試験の時間は 30 分以上、実技試験の時間は 30 分とする。その他の等級の理論知識試験の時間は 60 分以上、実技試験の時間は 30 分以上、総合評価審査の時間は 30 分以上とする。

#### 1.8.5 検定場所の設備

理論知識試験は、標準教室あるいはコンピュータールームで行い、教室にはすべての学生の範囲をカバーする監視設備がなければならない。実技試験の場所には 10 人以上の作業位置を準備しなければならない。各作業位置にはすべての作業位置範囲をカバーする監視設備を設置し、国家基準あるいはその他の規定に適合する介護関連の施設、設備と用品がなければならない。総合評価審査は教育教具設備のある実習、実地研修場所で行うことができる。

### 2. 基本的要件

#### 2.1 職業道德

##### 2.1.1 職業道德の基本知識

##### 2.1.2 職業規則

- (1) 高齢者を尊重し敬い、人間性を重んじる。
- (2) 高齢者を敬い家族を大切にし、美德を発揚する。
- (3) 規則に従い法律を守り、自律的で奉仕する。
- (4) サービスを第一とし、仕事を愛し熱心に打ち込む。

#### 2.2 基礎知識

##### 2.2.1 養老介護員の職業と業務での注意事項

- (1) 養老介護員のサービスエチケット基準。
- (2) 養老介護員の労働安全と個人保護知識。
- (3) 養老介護員の自己心理調整に関する知識。
- (4) 養老介護員の施設、コミュニティと在宅におけるサービス提供の基本規範の常識。

##### 2.2.2 人間関係とコミュニケーション

- (1) 人間関係の対応原則。
- (2) コミュニケーションの方法。

##### 2.2.3 高齢者介護の基礎知識

- (1) 高齢者の生理的、心理的特徴。

- (2) 高齢者介護の特徴。
- (3) 高齢者によく見られる病気の介護重点。
- (4) 高齢者によく見られる問題の観察方法。
- (5) 高齢者の飲食種類及び栄養ニーズ。
- (6) 高齢者によく見られるトラブルとストレスの対応方法。
- (7) 高齢者介護の記録方法。
- (8) 高齢者リハビリテーションの理念、リハビリテーションと健康の関係。

#### 2.2.4 安全衛生、環境保護の知識

- (1) 高齢者の安全防備及び関連知識。
- (2) 高齢者衛生防備の知識。
- (3) 高齢者環境保護の知識。
- (4) 食品安全の知識。
- (5) 応急手当の常識。
- (6) 自然災害対応の知識。

#### 2.2.5 消防安全の基礎知識

- (1) 火災の危険性、火災予防の知識と措置。
- (2) 火気使用、電気使用、ガス使用の安全常識。
- (3) 消防安全表示及びその意味。
- (4) 火災発生通報、初期火災の消火、自己救助・相互救助と避難の知識。
- (5) 建物消防設備の性能、消火器材の使用方法。
- (6) 建物火災避難器材の使用方法和関連知識。
- (7) 消防法違反行為処罰の法律関連知識。

#### 2.2.6 関連する法律、法規の知識

- (1) 「中華人民共和国高齢者権利保護法」関連知識。
- (2) 「中華人民共和国労働法」関連知識。
- (3) 「中華人民共和国労働契約法」関連知識。
- (4) 「中華人民共和国消防法」関連知識。
- (5) 「中華人民共和国食品衛生法」関連知識。

### 3. 業務要件

本基準の5級/初級介護員、4級/中級介護員、3級/高級介護員、2級/技師、1級/高級技師の技能要件と関連知識要件は順次累加し、高位級は低位級の要件を含める。

#### 3.1 5級/初級介護員

職能	業務内容	技能要件	関連知識要件
1. 生活介護	1.1 衛生	1.1.1 高齢者の洗顔、手洗い、洗髪、髪梳き、ひげ剃り、洗足、手足の爪切りができる 1.1.2 高齢者の口腔衛生介助ができる。 1.1.3 高齢者の義歯の付け外しと洗浄ができる 1.1.4 高齢者の入浴(シャワー、浴槽入浴、全身清拭)介助ができる 1.1.5 高齢者の会陰部清潔ができる	1.1.1 高齢者の衛生知識及び観察の要点 1.1.2 高齢者の口腔衛生知識、義歯の一般的な手入れの知識 1.1.3 高齢者のベッド上の清潔要件及び注意事項 1.1.4 高齢者の会陰部清浄の注意事項
	1.2 衣類着脱	1.2.1 高齢者の衣服、靴下を着脱できる 1.2.2 高齢者の簡易装具など補助具付け外しの介助ができる	1.2.1 高齢者の衣服着脱の方法、要件と注意事項 1.2.2 簡易装具など補助具の着脱方法と注意事項
	1.3 食事	1.3.1 高齢者摂食時の姿勢を取らせることができる 1.3.2 高齢者の食事、水分補給の介助ができる 1.3.3 高齢者の食事、水分補給の種類と量の観察、評価、異常と変化の報告記述ができる 1.3.4 食べ物の喉詰まり、誤嚥の応急措置を採り、報告し、助けを求めることができる。	1.3.1 高齢者の食事、水分補給の体位変換方法及び要件 1.3.2 高齢者の食事、水分補給の方法及び観察の要点 1.3.3 高齢者の食事、水分補給のリスク識別 1.3.4 よく見かける高齢者の食事の種類と摂取量
	1.4 排泄	1.4.1 高齢者のトイレ介助ができる 1.4.2 寝たきり高齢者の便器排便介助ができる 1.4.3 高齢者のおむつの交換、尿の処理ができる 1.4.4 高齢者の排泄物の性状、色、回数及び量を観察し、異常を報告記録できる	1.4.1 高齢者の排泄の基本知識及び観察の要点 1.4.2 便器及び補助用品の正確な使用方法及び注意事項 1.4.3 排泄物の性状、色と異常な状況

	1.5 睡眠	<p>1.5.1 高齢者の睡眠環境づくりができる</p> <p>1.5.2 高齢者の睡眠状況の観察、異常と変化を報告記録できる</p>	<p>1.5.1 高齢者の睡眠の特徴</p> <p>1.5.2 高齢者の睡眠介助の基本的方法及び観察の要点</p>
	1.6 環境浄化	<p>1.6.1 高齢者に快適で清潔な環境を提供できる</p> <p>1.6.2 ベッドの整理、シーツ交換ができる</p>	<p>1.6.1 快適な環境を維持する基本的な方法</p> <p>1.6.2 ベッドの整理、シーツの交換操作方法と注意事項</p>
	1.7 認知症介護	<p>1.7.1 認知症高齢者の生活介助ができる</p> <p>1.7.2 認知症高齢者の異常行動観察に協力できる</p>	<p>1.7.1 認知症の基本的な概念と認知症高齢者介護の原則</p> <p>1.7.2 認知症高齢者介護の基本的な方法と注意事項</p>
2. 基礎介護	2.1 身体的兆候の観察	<p>2.1.1 高齢者のバイタルサイン測定介助、観察、記録ができる</p> <p>2.1.2 高齢者の体重測定介助、記録ができる</p>	<p>2.1.1 バイタルサイン測定方法及び観察の要点</p> <p>2.1.2 体重測定方法及び注意事項</p>
	2.2 看護支援	<p>2.2.1 湯たんぽなどで保温ができる</p> <p>2.2.2 氷嚢などを使用して高熱の物理的体温調整ができる</p> <p>2.2.3 冷熱療法使用の高齢者の皮膚の異常と変化を観察し、記録し適時に報告できる</p> <p>2.2.4 寝返りの介助で皮膚の変化を観察し、1度床ずれを識別し、処理し報告できる</p> <p>2.2.5 寝返りで背中をたたき、排痰促進ができる。</p>	<p>2.2.1 高齢者の保温と物理的熱さましの操作方法及び注意事項</p> <p>2.2.2 高齢者の皮膚観察知識</p> <p>2.2.3 床ずれの基本的知識と予防</p> <p>2.2.4 1度床ずれの処理方法</p> <p>2.2.5 背中をたたく基本方法</p>
	2.3 感染予防	<p>2.3.1 環境及び物品の清潔ができる</p> <p>2.3.2 手の清潔ができる</p>	<p>2.3.1 環境及び物品清潔の概念と基本的な方法</p> <p>2.3.2 手の清潔の重要性と基本的な方法</p>
3. リハビリサービス	3.1 体位変換	<p>3.1.1 高齢者の正しい体位設定ができる</p> <p>3.1.2 高齢者の各種体位の変換介助ができる</p> <p>3.1.3 歩行補助器、車椅子などの補助具を用いて高齢者の移動を介助できる</p>	<p>3.1.1 高齢者によく見られる体位及び設定の原則</p> <p>3.1.2 高齢者の安全な体位変換方法</p> <p>3.1.3 歩行補助器、車椅子などの補助具の使用方法及び注意事項</p>
	3.2 レクリエーション	<p>3.2.1 高齢者の手芸のデモンストレーション、指導ができる</p> <p>3.2.2 高齢者の娯楽ゲームのデモンストレーション、指導ができる</p>	<p>3.2.1 高齢者が常用する手芸活動の種類と指導方法</p> <p>3.2.2 高齢者のレクリエーション活動の種類と指導方法</p>

### 3.2 4級/中級介護員

職能	業務内容	技能要件	関連知識要件
1. 生活介護	1.1 清潔	1.1.1 高齢者の口腔衛生介助ができる 1.1.2 高齢者の身体衛生の介助、特殊状況の対応ができる	1.1.1 高齢者の口腔衛生方法及び注意事項 1.1.2 高齢者の身体衛生基本的種類と方法及び特殊状況の対応方法
	1.2 食事	1.2.1 高齢者の疾病と特殊食のニーズに基づき、食事のタイプと加工方法を選択できる 1.2.2 経鼻栄養高齢者の食事、水分補給ができる	1.2.1 高齢者が常用する食事のタイプ 1.2.2 高齢者食品加工の基本的な方法 1.2.3 高齢者の経鼻栄養の基本的知識 1.2.4 喉詰まり、誤嚥の救護知識
	1.3 排泄	1.3.1 グリセリン浣腸、人工排便及びその他の補助方法で排便介助ができる 1.3.2 人工肛門の高齢者のストーマバッグを交換できる 1.3.3 留置カテーテル使用高齢者の尿量及び色を観察し、異常を記録し適時に報告できる	1.3.1 グリセリン浣腸、人工排便及びその他の補助方法の操作要点及び注意事項 1.3.2 ストーマバッグ交換の方法及び注意事項 1.3.3 尿量記録の方法
	1.4 睡眠	1.4.1 高齢者の睡眠環境影響要因を識別し、改善を提案できる 1.4.2 睡眠障害のある高齢者の就寝介護ができる 1.4.3 高齢者の不良睡眠習慣の改善指導ができる	1.4.1 高齢者の睡眠環境問題評価の知識 1.4.2 高齢者の睡眠障害関連の知識 1.4.3 高齢者の睡眠指導の知識
	1.5 環境浄化	1.5.1 高齢者の生活環境及び常用物品の浄化消毒ができる 1.5.2 感染者のベッドサイドの消毒隔離ができる 1.5.3 ごみの分別処理ができる	1.5.1 消毒隔離の基本知識 1.5.2 消毒隔離の原則と基本的な方法 1.5.3 ごみ分別処理の方法及び原則
2. 基礎介護	2.1 身体的兆候の観察	2.1.1 高齢者のバイタルサイン測定観察、記録ができる 2.1.2 高齢者の体重測定記録ができる 2.1.3 高齢者の血糖値測定観察、記録ができる	2.1.1 バイタルサイン測定方法及び観察の要点 2.1.2 体重測定方法及び注意事項 2.1.3 血糖値測定方法及び観察の要点

	2.2 服薬	<p>2.2.1 高齢者の服薬介助、服薬後の観察、報告ができる</p> <p>2.2.2 高齢者のインシュリン使用後の血糖値異常を観察できる</p>	<p>2.2.1 服薬方法と注意事項</p> <p>2.2.2 糖尿病の基本知識及び血糖値異常の一般的症状</p>
	2.3 リスク対応	<p>2.3.1 高齢者の転倒、床ずれ、行方不明、喉詰まり、誤嚥、やけど、凍傷、中毒、熱中症のリスクを識別し、直ちに報告し、予防措置を提供できる</p> <p>2.3.2 高齢者の転倒、外傷、筋肉・骨格・関節の損傷などを発見し、適時に報告できる</p>	<p>2.3.1 高齢者の転倒、床ずれ、行方不明、喉詰まり、誤嚥、やけど、凍傷、中毒、熱中症の基本知識</p> <p>2.3.2 高齢者の転倒、床ずれ、行方不明、喉詰まり、誤嚥、やけど、凍傷、中毒、熱中症の予防介護要点</p> <p>2.3.3 高齢者の転倒、床ずれ、行方不明、喉詰まり、誤嚥、やけど、凍傷、中毒、熱中症の対応方法</p>
	2.4 看護支援	<p>2.4.1 胃管、尿管、気管切開及び造瘻の異常状況を観察、識別し、適時に記録報告できる</p> <p>2.4.2 高齢者の排便の検体採取ができる</p> <p>2.4.3 高齢者の診察介助ができる</p> <p>2.4.4 II度床ずれ高齢者の看護支援ができる</p>	<p>2.4.1 胃管、尿管、気管切開及び造瘻の介護方法及び注意事項</p> <p>2.4.2 検体採取方法及び注意事項</p> <p>2.4.3 診察介助の基本内容と手順</p> <p>2.4.4 II度床ずれ高齢者の介護知識</p>
	2.5 感染予防	<p>2.5.1 高齢者によく見られる感染症の予防ができる</p> <p>2.5.2 消毒液を正しく調合・使用し、環境と物品の消毒ができる</p>	<p>2.5.1 高齢者によく見られる感染症の予防方法</p> <p>2.5.2 消毒液の調合方法と注意事項</p>
	2.6 認知症介護	<p>2.6.1 認知症高齢者によく見られる異常行動の識別対応ができる</p> <p>2.6.2 認知症高齢者の安全な環境を提供できる</p>	<p>2.6.1 認知症高齢者によく見られる異常行動と対応</p> <p>2.6.2 認知症高齢者に安全な環境の基本的要点</p>
	2.7 看取りサービス	<p>2.7.1 終末期高齢者のコミュニケーションと付き添いができる</p> <p>2.7.2 遺体の清潔、遺品の整理ができる</p> <p>2.7.3 処理消毒ができる</p>	<p>2.7.1 看取りサービスの基本知識及び注意事項</p> <p>2.7.2 遺体の清潔、遺品整理の注意事項</p> <p>2.7.3 処理消毒の知識と方法</p>
3. リ ハ ビ リ サ ー	3.1 レクリエーション	<p>3.1.1 高齢者の文化・娯楽レクリエーションを実施できる</p> <p>3.1.2 高齢者の簡易なトレーニング器材を使用した活動を指導できる</p> <p>3.1.3 音楽、園芸、脳のトレーニングゲームなどで認知症高齢</p>	<p>3.1.1 文化・娯乐的レクリエーションの実施方法</p> <p>3.1.2 高齢者の簡易トレーニング器材の使用方法及び注意事項</p> <p>3.1.3 認知症高齢者の音楽、園芸、脳のトレーニング活動方法及び注意事項</p>

ビス		者を介護できる	
	3.2 機能促進	<p>3.2.1 高齢者の日常生活活動訓練を指導できる</p> <p>3.2.2 腹圧性尿失禁の高齢者の機能訓練に協力できる</p> <p>3.2.3 高齢者の簡易的リハビリ器材での活動または訓練を指導できる</p> <p>3.2.4 高齢者の坐位、立位の平衡訓練を指導できる</p> <p>3.2.5 高齢者日常生活補助具使用を指導できる</p> <p>3.2.6 高齢者の身体状況に応じて適切な歩行補助器、車椅子などの補助具を選択できる</p>	<p>3.2.1 高齢者の基礎的日常生活活動と手段的日常生活動作能力のリハビリ方法と注意事項</p> <p>3.2.2 高齢者の腹圧性尿失禁の機能訓練方法と注意事項</p> <p>3.2.3 高齢者の簡易トレーニング器材の使用方法和注意事項</p> <p>3.2.4 高齢者の坐位、立位の平衡能力訓練方法と注意事項</p> <p>3.2.5 日常生活類補助具の種類と使用方法</p> <p>3.2.6 歩行補助器、車椅子などの補助具選択の原則</p>
4. 心理的サポート	4.1 コミュニケーション	<p>4.1.1 高齢者と家族とのコミュニケーションができる</p> <p>4.1.2 チームメンバーとのコミュニケーションができる</p>	<p>4.1.1 コミュニケーションの種類</p> <p>4.1.2 コミュニケーションの方法</p>
	4.2 精神的サポート	<p>4.2.1 高齢者の気分と行動の変化を観察できる</p> <p>4.2.2 高齢者の気分と行動の変化の原因を識別できる</p>	<p>4.2.1 高齢者の気分と行動の変化の特徴</p> <p>4.2.2 高齢者の気分と行動の変化の原因</p>

### 3.3 3級/高級介護員

職能	業務内容	技能要件	関連知識要件
1. 基礎介護	1.1 服薬	<p>1.1.1 高齢者に内服薬を飲ませ、服薬後の副作用の観察記録ができる</p> <p>1.1.2 高齢者の点眼、点耳、点鼻などの外用薬の使用、使用後の副作用の観察記録ができる。</p>	<p>1.1.1 高齢者の常用薬物の副作用及びよく見られるリスクの防止措置</p> <p>1.1.2 高齢者の多剤使用のリスク</p>
	1.2 リスク対応	<p>1.2.1 高齢者の転倒、床ずれ、行方不明、喉詰まり、誤嚥、やけど、凍傷、中毒、熱中症のリスク評価、予防措置及び有害事象の分析ができる</p> <p>1.2.2 高齢者の外傷、筋肉・骨格・関節の損傷の発見、初歩的応急処置ができる</p> <p>1.2.3 医療関係者による転院搬送に協力できる</p>	<p>1.2.1 高齢者の転倒、床ずれ、行方不明、喉詰まり、誤嚥、やけど、凍傷、中毒、熱中症の評価方法及び対応措置</p> <p>1.2.2 高齢者の外傷、筋肉・骨格・関節の損傷などの応急処置方法</p> <p>1.2.3 安全転院搬送のプロセス</p>
	1.3 看護支援	<p>1.3.1 III 度に進行した床ずれ高齢者の看護支援ができる</p> <p>1.3.2 高齢者に対しエアゾール吸入、喀痰吸引、酸素吸入の操作を提供できる。</p>	<p>1.3.1 Ⅲ度床ずれ高齢者の介護</p> <p>1.3.2 エアゾール吸入、喀痰吸引、酸素吸入の操作方法と注意事項</p>
	1.4 認知症介護	<p>1.4.1 認知症高齢者の特殊な異常行動の対応ができる</p> <p>1.4.2 認知症高齢者の環境リスクの識別、対応措置ができる</p>	<p>1.4.1 認知症高齢者の特殊な異常行動の現れ及び対応措置</p> <p>1.4.2 認知症高齢者によく見られる環境リスク及び処置</p>
	1.5 看取りサービス	<p>1.5.1 終末期高齢者の家族に対し精神的サポートができる</p> <p>1.5.2 高齢者家族に葬儀の支援ができる</p>	<p>1.5.1 精神的サポートの注意事項</p> <p>1.5.2 嘆き悲しみの対応でよく見られる方法</p>
2. リハビリサービス	2.1 機能促進	<p>2.1.1 高齢者のリハビリテーション体操の計画指導ができる</p> <p>2.1.2 高齢者の歩行、階段上下の訓練を指導または協力できる</p> <p>2.1.3 高齢者の安全防護補助具の使用を指導または協力できる</p>	<p>2.1.1 高齢者が常用するリハビリテーション体操の方法、適用対象と注意事項</p> <p>2.1.2 高齢者の歩行、階段上下時のバランスと協調性のコントロール方法と注意事項</p> <p>2.1.3 安全防護補助具の種類と使用方法</p>

ス	2.2 認知訓練	<p>2.2.1 リハビリテーション計画に従って軽・中度認知機能障害高齢者の記憶力などの訓練を指導できる</p> <p>2.2.2 リハビリテーション計画に従って軽・中度認知機能障害高齢者の見当識などの訓練を指導できる</p>	<p>2.2.1 軽・中度認知機能障害の記憶力などの訓練の基本的な方法</p> <p>2.2.2 軽・中度認知機能障害の見当識などの訓練の基本的な方法</p>
3. 心理的サポート	3.1 コミュニケーション	<p>3.1.1 失明、痴呆、失語症などの機能障害の高齢者とのコミュニケーションができる</p> <p>3.1.2 トラブル発生時のコミュニケーションができる</p>	<p>3.1.1 非言語コミュニケーションの常用方法</p> <p>3.1.2 トラブル発生時の過程とコミュニケーションの注意事項</p>
	3.2 カウンセリング	<p>3.2.1 職場の仕事のプレッシャーに対応できる</p> <p>3.2.2 高齢者の自己ストレス解消を指導できる</p> <p>3.2.3 高齢者の異常な心理行動の識別、適時の報告ができる</p> <p>3.2.4 高齢者の心理及び気分の変化に対応できる</p>	<p>3.2.1 プレッシャーの対応方法</p> <p>3.2.2 高齢者によく見られる異常な心理及び処理方法</p> <p>3.2.3 高齢者の心理及び気分の変化の対応テクニック</p>
4. 研修指導	4.1 理論研修	<p>4.1.1 高齢者と家族に対する介護知識の指導ができる</p> <p>4.1.2 4級/中級介護員、5級/初級介護員の介護知識研修ができる</p>	<p>4.1.1 高齢者セルフケアの一般的な知識</p> <p>4.1.2 高齢者介護の常用知識</p> <p>4.1.3 4級/中級介護員、5級/初級介護員ランク職員の常用知識</p>
	4.2 技術指導	<p>4.2.1 高齢者セルフケアの方法を伝授できる</p> <p>4.2.2 家族などの非専門介護者に対する介護技能指導ができる</p> <p>4.2.3 4級/中級介護員、5級/初級介護員の職員に対する介護技能指導ができる</p>	<p>4.2.1 高齢者セルフケアの方法</p> <p>4.2.2 高齢者介護の常用技能</p> <p>4.2.3 4級級/中級介護員、5級/初級介護員の職員の常用技能</p>

### 3.4 2級/技師

職能	業務内容	技能要件	関連知識要件
1. リハビリサービス	1.1 機能促進	1.1.1 リハビリテーションスタッフの指導の下で、認知機能障害の高齢者の日常生活活動能力訓練ができる 1.1.2 リハビリテーションスタッフの指導の下で、軽・中度言語機能障害の高齢者の言語機能訓練に協力できる	1.1.1 認知機能障害の高齢者の日常生活活動能力の特徴と基本訓練の方法 1.1.2 言語機能障害の特徴と基本訓練の方法
	1.2 リハビリテーションの評価	1.2.1 リハビリテーションスタッフの指導の下で、高齢者の日常生活活動能力リハビリテーション効果の評価に協力できる 1.2.2 リハビリテーションスタッフの指導の下で、高齢者の運動機能リハビリテーション効果の評価に協力できる 1.2.3 リハビリテーションスタッフの指導の下で、高齢者の認知機能リハビリテーション効果の評価に協力できる	1.2.1 高齢者日常生活活動能力評価の方法 1.2.2 高齢者運動機能評価の方法 1.2.3 高齢者認知機能評価の方法
2. 介護の評価	2.1 高齢者の能力評価	2.1.1 高齢者能力評価の実施計画を作成できる 2.1.2 高齢者の能力評価を行い要介護度を区分できる 2.1.3 高齢者介護のリスク評価を行い、要介護度の調整ができる	2.1.1 高齢者能力評価計画の実施方法、手順と注意事項 2.1.2 高齢者要介護度区分の知識 2.1.3 高齢者介護リスクの評価方法
	2.2 介護計画の作成	2.2.1 主な介護問題を識別し、介護計画を作成できる 2.2.2 段階的な能力評価を行い、介護計画を調整できる 2.2.3 能力評価レポートを作成できる	2.2.1 高齢者の主な介護問題 2.2.2 高齢者介護計画の作成、調整方法 2.2.3 高齢者能力評価レポートの作成要件と基準
	2.3 高齢者に適した環境と補助具利用の評価	2.3.1 高齢者に適した環境について評価を行い、改善方法を提案できる 2.3.2 高齢者のリハビリテーション補助具利用ニーズの評価を行い、改善方法を提案できる	2.3.1 高齢者に適した環境の評価方法 2.3.2 高齢者のリハビリテーション補助具利用ニーズの評価方法

3. 品質管理	3.1 品質監督	<p>3.1.1 介護サービス効果の監督ができる</p> <p>3.1.2 人事管理効果の監督ができる</p> <p>3.1.3 サービス保障の監督ができる</p> <p>3.1.4 サービスの安全性の監督管理ができる</p>	<p>3.1.1 介護サービス効果監督方法</p> <p>3.1.2 人事管理効果監督方法</p> <p>3.1.3 サービス保障監督方法</p> <p>3.1.4 サービス安全性監督管理方法</p>
	3.2 品質管理	<p>3.2.1 介護サービスの実施を管理ができる</p> <p>3.2.2 サービス担当者を管理できる</p> <p>3.2.3 サービス保障要件を実行できる</p> <p>3.2.4 サービスの安全性要件実行できる</p>	<p>3.2.1 介護サービス実施過程の管理方法</p> <p>3.2.2 サービス担当者の管理方法</p> <p>3.2.3 サービスの保障要件</p> <p>3.2.4 サービスの安全性要件</p>
4. 研修指導	4.1 理論研修	<p>4.1.1 3級/高級介護員以下のスタッフに対する知識研修ができる</p> <p>4.1.2 研修計画、授業計画を作成できる</p>	<p>4.1.1 3級/高級介護員以下のスタッフの常用知識</p> <p>4.1.2 研修の基本方法</p> <p>4.1.3 研修計画の作成方法</p>
	4.2 技術指導	<p>4.2.1 3級/高級介護員以下のスタッフに対する技術技能研修を実施できる</p> <p>4.2.2 介護サービスと管理の経験と技能を伝授できる</p>	<p>4.2.1 3級/高級介護員以下のスタッフの常用技能</p> <p>4.2.2 サービスと管理経験の総括方法</p> <p>4.2.3 教育の計画と実施方法</p>

### 3.5 1級/高級技師

職能	業務内容	技能要件	関連知識要件
1. 介護の評価	1.1 特別機能評価	1.1.1 高齢者によく見られる身体、心理と社会的機能などの特別評価を行い、介護の特殊な問題を識別できる 1.1.2 高齢者によく見られる身体、心理と社会的機能の特別評価実施計画を作成できる	1.1.1 高齢者特別機能評価の内容 1.1.2 高齢者特別機能評価計画の実施方法、手順と注意事項
	1.2 介護計画の改善	1.2.1 段階的機能評価を行い、介護計画を調整できる 1.2.2 特別機能評価レポートを作成できる	1.2.1 段階的特別機能評価の方法 1.2.2 高齢者介護計画の作成、調整方法と要件 1.2.3 高齢者特別機能評価レポートの作成要件と基準
	1.3 評価管理	1.3.1 評価者を組織、監督指導し、評価を実施できる 1.3.2 複雑な状況の個別対応ができる 1.3.3 評価実施計画を継続的に改善できる 1.3.4 評価基準の要件に従って、争議のある評価結果を処理できる	1.3.1 評価者の組織と管理の方法 1.3.2 複雑な状況評価の個別処理の関連知識及び方法 1.3.3 評価実施計画の改善方法 1.3.4 評価結果に対する争議の処理方法
2. 品質管理	2.1 施設の内部管理	2.1.1 品質管理体系を構築できる 2.1.2 組織内部の品質基準、評価指標を作成できる 2.1.3 品質評価を計画実施できる 2.1.4 内部品質管理の分析、整理改善計画を作成できる	2.1.1 品質管理体系関連の知識 2.1.2 品質評価の基本方法
	2.2 品質システム評価	2.2.1 施設あるいは組織のサービス及び管理品質を評価できる 2.2.2 施設あるいは組織の品質問題を発見し、改善提案を提出できる 2.2.3 施設あるいは組織の改善効果の再評価ができる	2.2.1 品質評価結果の分析方法 2.2.2 品質改善継続の関連知識
3. 研修指	3.1 理論研修	3.1.1 2級/技師以下のスタッフに対する研修の計画参加ができる 3.1.2 業界の傾向の分析、介護サ	3.1.1 2級/技師以下のスタッフの常用知識及び技能 3.1.2 研究レポート作成の書式、内容と方法

導		ービスと管理の研究レポートを作成できる	
	3.2 研修管理	3.2.1 研修計画の評価、改善提案を提出できる 3.2.2 研修効果の評価、改善提案を提出できる 3.2.3 業界の発展に提言をできる	3.2.1 研修管理の関連知識 3.2.2 介護サービス業界の発展動向と政策情報

#### 4. 評価項目採点表

##### 4.1 理論知識

項目		技能等級	5級/初級 介護員 (%)	4級/中級 介護員 (%)	3級/高級 介護員 (%)	2級/ 技師 (%)	1級/ 高級技師 (%)
基本要件	職業道德		5	5	5	5	5
	基礎知識		20	20	15	10	10
関連知識要件	生活介護		45	30	–	–	–
	基礎介護		20	30	35	–	–
	リハビリテーションサービス		10	10	15	15	–
	心理的サポート		–	5	15	–	–
	介護評価		–	–	–	30	30
	品質管理		–	–	–	25	30
	研修指導		–	–	15	15	25
合計			100	100	100	100	100

##### 4.2 実技試験

項目		技能等級	5級/初級 介護員 (%)	4級/中級 介護員 (%)	3級/高級 介護員 (%)	2級/ 技師 (%)	1級/ 高級技師 (%)
技能要件	生活介護		60	30	–	–	–
	基礎介護		25	45	40	–	–
	リハビリテーションサービス		15	15	20	20	–
	心理的サポート		–	10	20	–	–
	介護評価		–	–	–	30	40
	品質管理		–	–	–	30	35
	研修指導		–	–	20	20	25
合計			100	100	100	100	100